

| 科目コード | 科目名 | 単位数 |
|-------|------------|-----|
| 1001 | 学校経営と学校図書館 | 2単位 |

教材コード 000299

教材名 『学校経営と学校図書館』

(学習指導書別冊)

著者名等 古賀 節子 編著

■教材の概要

まず、学校図書館というものがいかなるものであるか、そしてどのように生まれ、今日に至っているかを明らかにする。

そこで、学校図書館が学校教育において欠くことのできないサービス機関であることを理解し、学校図書館メディア、施設、設備の全体を把握し、それらの維持・管理のしくみを検証する。そのあと、全体的な学校図書館経営、学校図書館活動、そして、学校図書館の評価と改善を取り上げ、課題と展望で終わる。

■学習計画のポイント

学校図書館の機能や役割は、学校で行なわれる教育活動のすべてに関わるものである。言いかえると、学校経営全般に関わることである。まずこのことを理解して、学校教育全体に目を向け、今日の問題も含めて、学校を全面的にとらえられるようにする。

学校図書館の経営は、内容豊かである。業務も多様である。全体からすると、学校図書館の部分はサブシステムとなるものである。部分をしっかりとらえ、全体を機能させることができるよう、学習を組み立ててほしい。

■学習上の留意点

学習の部分をしっかりとらえ、全体である学校図書館が生きて働くよう部分をつなげる。学習領域は広い。時間かけて理解を深めることが肝要。

■参考文献

※『学校図書館を創る』山本みゆき著（長崎出版文庫）

※『子どもが生きる学校図書館』熱海則夫・長倉美恵子編著（ぎょうせい）

| 科目コード | 科 目 名 | 単位数 |
|---------|--------------|------|
| 1 0 0 2 | 学校図書館メディアの構成 | 2 単位 |

教材コード 000389

教 材 名 『分類・目録法入門(新改訂第5版)―メディアの構成―』(学習指導書別冊)

著 者 名 等 志保田 務・井上 祐子・向畑 久仁・中村 静子

■教材の概要

本書は学校図書館における資料の選択・収集，蔵書構成，資料組織法（分類・件名・目録）について解説している。学校図書館において資料を選択・収集する上での諸問題，教育方針と学習方法に即した蔵書コレクションの形成，主題による組織化として分類・件名，書誌による組織化として目録について解説している。

■学習計画のポイント

主に図書資料を中心に選択・収集，蔵書構成における問題を把握して，主題を分析して記号化する分類作業と，書誌情報を作成する目録作業について重点的に理解を図りたい。

■学習上の留意点

- ① 資料の選択・収集について。
- ② 蔵書構成について。
- ③ 分類・件名について。
- ④ 目録について。

■参考文献

- 『資料組織演習（新訂版）』吉田憲一・野口恒雄著（日本図書館協会）
『日本十進分類法（新訂9版）』（日本図書館協会）
※『日本目録規則 1987年版（改訂3版）』（日本図書館協会）
『基本件名標目表』（日本図書館協会）
※『中学・高校件名標目表（第3版）』（全国学校図書館協議会）
※『小学校件名標目表（第2版）』（全国学校図書館協議会）

| 科目コード | 科目名 | 単位数 |
|-------|------------|-----|
| 1003 | 学習指導と学校図書館 | 2単位 |

教材コード 000448

教材名 『学習指導と学校図書館 学校図書館実践テキストシリーズ4』

著者名等 朝比奈 大作 編著

■教材の概要

全体は3章から成っており、第1章が総論、第2・3章は各論に相当する。第1章では、今なぜ「学習情報センター」としての学校図書館が必要とされているのか、という理念的、思想史的な解説がされており、次代を担う子どもたちを教育するにはどのようなメディア環境が求められるかという問題提起を行っている。2・3章ではそれぞれ「メディア活用能力の育成」「学校図書館における情報サービス」という見地から、「調べ学習」ないしは「情報検索」の具体的な方法とその指導のあり方について解説している。特に「教師を支援する」という学校図書館の機能についても留意しておきたい。

■学習計画のポイント

ページ9～64

上記のようにこの部分は全体の「総論」にあたる。なぜ学校には「学校図書館がなければならない」とされているのか、そしてなぜ学校図書館には資格を持った専門家としての「司書教諭を置かなければならない」と定められているのか、司書教諭の仕事のうち「資格の無い者には任せられない」仕事とはどのようなものなのか、しっかり考えてほしい。特に情報化社会と言われる現代において、子どもたちに何を教えていくべきなのか、という「見識」を持つよう努力していくべきである。

ページ65～170

前半（1章）の総論と後半（2・3章）の各論は何回か往復しながら学習を進めるべきである。後半部分は正に司書教諭として「実行」しなければならない具体的な仕事の内容である。1つ1つの具体的な解説について、「今の自分に実行できるだろうか」と問いかけながら読み進めてほしい。そして「今の自分には実行できそうもない」と思えたならば、「それではこのことを実行できるようになるためには、どんな学習・努力が必要だろうか」と考えてほしい。いわゆる「調べ学習」の指導者となることを目指しているのだから、自ら「調べ学習の達人」にならなければいけないはずだ。テキストに「書いてあること」を理解し、暗記するばかりでなく、常にその内容を「実行する」「指導する」ことを念頭に置いて学習を進めること。

■学習上の留意点

- ① 上記の繰り返しになるが、自らが「調べ学習・情報検索の達人」になるよう、「実際に調べてみる」ことを前提に学習を進めること。
- ② メディアの状況（特にインターネット関連）は変化が激しい。テキストに書かれていない「最新の情報」についても学習するよう心がけること。

■参考文献

『学習指導と学校図書館』堀川照代ほか（日本放送出版協会）（放送大学教材）
『インターネット時代の学校図書館—司書・司書教諭のための「情報」入門』根本彰監修（東京電機大学出版局）
その他、テキストに掲載されている参考文献も活用されたい。

| 科目コード | 科目名 | 単位数 |
|-------|-----------|-----|
| 1004 | 読書と豊かな人間性 | 2単位 |

教材コード 000302

教材名 『心の扉をひらく本との出会い 子どもの豊かな読書環境をめざして』（学習指導書別冊）

著者名等 笹倉 剛

■教材の概要

まず、「感動は心の扉をひらく」という信念に立って、子どもにとっての読書の意義を考察する。

その上で、感動する本との出会いの豊富な事例に即して、現代の子どもが置かれている状況の中での子どもの発達と読書の問題を論ずる。そして、子どもと質の高い本を結ぶ大人の役割と、その方法について述べる。

■学習計画のポイント

- ① 子どもにとって読書は何を意味するのか。すぐれた本との出会いは子どもに何をもたらし、子どもの読書離れは何をもたらすのかを、しっかり考える。
- ② すぐれた本のもつ力、豊かな人間性を育む本について考察する。
- ③ 映像文化、電子的ネットワークという時代状況の中で、子どもの発達と映像文化や読書はどう関わってくるのかを考察する。
- ④ 子どもが、よい本と出会い、読書を楽しむ習慣を身につけるための具体的な方策を考える。

■学習上の留意点

紙幅の限られた教科書の中では、十分に記されていないことを補うため、また自らの読書に対する考え方を確立するためにも、巻末に掲載されている参考文献にはなるべく多く目を通すこと。そして教科書で取り上げている子どもの本や、すぐれた子どもの本を紹介した本を参考に、何冊かの子どもの本を読んでみる。

■参考文献

※『橋をかける 子供時代の読書の思い出』（すえもりブックス）

『本が死ぬところ暴力が生まれる』バリー・サンダース著、松本卓訳（新曜社）

※『読書の発達心理学』秋田喜代美著（国土社）

| 科目コード | 科目名 | 単位数 |
|-------|-----------|-----|
| 1005 | 情報メディアの活用 | 2単位 |

教材コード 000473

教材名 『情報メディアの活用（シリーズ学校図書館学 5巻）』

著者名等 全国学校図書館協議会

■教材の概要

本書は学校教育と学校図書館における情報メディアの活用について解説している。情報とメディアの語源と定義、情報メディアの種類と特性、オンライン系の情報源としてのインターネットの活用、ディスク系の情報源としてのCD（CD-ROM、CD-R、CD-RWなど）、DVD-ROMなどの原理と活用、著作権をめぐる今日的な課題、情報社会の光と影として、学校教育で情報メディアを活用する上での諸問題を論じている。

■学習計画のポイント

- ① 情報とメディアの定義について、教科書・教材・参考図書を参照して、熟考する。
- ② インターネットの活用について（サーチエンジンを使ったWebpageの検索）、実際に試みる。
- ③ CD、DVD、ブルーレイディスク（CD-ROM、DVD-ROMも含む）の活用についても、実際に試みる。
- ④ 著作権について、事例を参照して、問題点を考える。
- ⑤ 情報社会におけるモラルについて、新聞や雑誌を活用して、最近の事例から問題点を考える。

■学習上の留意点

現在、学校図書館では紙に印刷された資料（印刷メディア）以外の情報メディアが急激に導入されている。学校図書館におけるオンライン系・ディスク系の情報源の特性を理解して、情報メディアに関する視点を持ち、児童生徒が学習の場で活用できる方法を考察することが目的である。著作権、情報モラルなどの今日的な問題についても考察したい。

■参考文献

- 『情報メディアの意義と活用』大串夏身編（樹村房）
『学校図書館と著作権 Q & A（第3版）』森田盛行著（全国学校図書館協議会）
※『現代社会と著作権』斎藤博他著（放送大学教育振興会）

| 科目コード | 科 目 名 | 単位数 |
|-------|-------|-----|
| 2001 | 生涯学習論 | 2単位 |

教材コード 000436

教 材 名 『生涯学習概論』

著 者 名 等 佐藤 晴雄

■教材の概要

生涯学習および社会教育に関する基礎基本をまとめた入門書であり，大学で生涯学習論を学ぶ各位を対象としたテキストである。

■学習計画のポイント

- ① 学習プログラムとは何かを整理し，学習プログラムのタイプ，学習プログラムの編成の視点，を本書から学習してゆく。実際に行われている学習プログラムを，博物館などを例に挙げて理解を深める（111～121ページ）。
- ② 社会教育施設について学習を行う。公民館，図書館，博物館，その他社会教育施設についての理解を深める（169～185ページ）。

■学習上の留意点

予習を必ず行ってくる。特に，博物館で行われている学習プログラムについて，リサーチを行うこと。

■参考文献

特になし。

| 科目コード | 科目名 | 単位数 |
|-------|-----|-----|
| 2008 | 民俗学 | 4単位 |

教材コード 000491

教材名 『図説 日本民俗学』

著者名等 福田 アジオ・古家 信平・上野 和男・倉石 忠彦・高桑 守史

■教材の概要

民俗学の研究成果を、写真等を示しつつ、コンパクトにまとめている。先行研究のリストが付されていないので、各自で検索し入手する必要がある。

■学習計画のポイント

この教材については、1分冊と2分冊とを範囲指定しない。2通のレポートは、民俗学全体のなかから研究テーマを設定してよい。

①教科書はページ順に読むのではなく、目次と索引を活用しながら、自分が関心をもったトピックから読解し、その主題の議論とキーワードを理解する。②レポートで論じたいキーワードについて、サイニイ (<http://ci.nii.ac.jp/>)、Google Scholar (<http://scholar.google.co.jp/>) などの学術情報検索システムと公立図書館・大学図書館を利用して先行研究を入手し、特定の研究テーマについて理解を深める。先行研究を読解することで論文の書き方（議論展開の形式）を理解する。ウェブサイト情報だけの利用では合格水準に達しない。③読者に伝えたい自分の発見を軸にして、レポート（論文）のアウトライン（論文の設計図）を構成する。アウトラインに基づいて、自分の発見を読者に説得力ある形で伝える。論じるテーマを小さく絞り具体化することが、論文成功の秘訣である。どこにでも書いてあるような常識的知識や蘊蓄を書き写しても学術的な論文にはならない。

■学習上の留意点

民俗学とは何かを理解するより、むしろ民俗学によって何が見えてくるのかを、各自の具体的な関心とすりあわせて考えていただきたい。地元図書館の地域資料コーナーを利用したり、博物館・資料館で知見を広めることが望ましい。自分の経験のなかで疑問を育て、独自の研究テーマを設定することが重要である。身近な高齢者に往時の生活体験についてインタビューを試みるような積極性を期待している。

| 科目コード | 科目名 | 単位数 |
|-------|-------|------|
| 2009 | 文化人類学 | 4 単位 |

教材コード 000424

教材名 『文化人類学のレッスン[増補版]』

(学習指導書別冊)

著者名等 奥野 克巳・花淵 馨也 共編

■教材の概要

文化人類学は複雑化する現代社会において異文化および自文化を理解するための重要なカギとなる学問である。本書はこのような文化人類学を初めて学ぶ人のための教材である。内容は、はじめにフィールドワークの手法による方法論とこの文化人類学の形成について論述している。そして文化人類学が注目する民族や国家、家族や親族、ジェンダーなど、人間社会の各諸相や経済活動について考察する章が続く。後半では儀礼や宗教及び文化やアイデンティティのあり方や現代的問題であるグローバル化についても言及し、文化人類学が取り組んできた人間社会への多角的な分析とさまざまな問題へアプローチの方法について考えていくことができる。本書を教材として、文化人類学が捉えようとしている事象とその方法の一端を学んで欲しい。

■学習計画のポイント

ページ 1 ～ 130

まずは文化人類学の研究を振り返り、その成立の状況から、この学問がいかなる方法によって研究されて来たか考え、その重要なポイントであるフィールドワークの重要性を把握する。研究の対照となる人間を分類する概念である国家や民族について考察する。また、人間の基本的な社会構造としての家族や親族の様相についても考察し、社会的動物としての人間の「性」についても改めて考えていきたい。また、人間がおこなう経済活動に関しても、文化人類学的な視点で捉え直していきたい。

ページ 131 ～ 280

人間が行ってきた儀礼について考察し、その行為や目的などについて分析していく。儀礼とかかわりが深い宗教と呪術に関してもその諸相と意味するところを考えていく。人間社会において直面する「死」は宗教が必ず関わってくる、この「死」の文化についても考察を進めていく。また、現在の視点として、「文化」そのものの意味と、文化と深く関わるアイデンティティに関して考察し、グローバル化が進む現代世界での文化人類学が目指す方向やこの学問が問い続ける意味について考えていく。

■学習上の留意点

文化人類学がいかなる学問であるか、その輪郭を感じ取ってもらいたい。文化人類学はフィールドワークが唯一の研究手法であり、このフィールドワークによる文化人類学者の異文化経験を追体験しながら学習するように努めてほしい。また、この文化人類学が対象とする領域は文化のすべての面に及ぶので、それぞれの事項について整理しながら学習すること。不明な用語については教材巻末に索引があるのでそれを利用すること。

■参考文献

- 『文化人類学 15 の理論』（中公新書）綾部恒雄編（中央公論新社）
- 『文化人類学を学ぶ』（有斐閣選書）蒲生正男他編（有斐閣）
- 『文化人類学入門（増補改訂版）』（中公新書）祖父江孝男著（中央公論新社）
- 『フィールドワーク（増訂版）』佐藤郁哉著（新曜社）
- ※『文化人類学の名著 50』綾部恒雄編（平凡社）
- ※『文化人類学と人間』綾部恒雄他著（三五館）
- 『文化人類学 20 の理論』綾部恒雄編（弘文堂）
- ※『人類学的思考の歴史』竹沢尚一郎著（世界思想社）

| 科目コード | 科目名 | 単位数 |
|-------|-------|-----|
| 2010 | 博物館概論 | 2単位 |

教材コード 000492

教材名 『新時代の博物館学』

著者名等 全国大学博物館学講座協議会西日本部会 編

■教材の概要

本書は、平成23年「博物館法」改正に伴う新教材で、「博物館概論」のほか「博物館経営論」・「博物館資料論」・「博物館資料保存論」・「博物館展示論」・「博物館情報・メディア論」・「博物館教育論」が収められている。つまり、実習を除く全ての開講科目について、ねらいと内容が列挙されている。そのうち、「博物館概論」では、博物館学の定義・目的、博物館の定義・歴史・現状と課題等々の基礎的知識を理解することを目標としている。

■学習計画のポイント

博物館とは何か、「博物館法」の定義をはじめとして、国際的な代表的な会議での「博物館」の定義と目的について学ぶ。そのうえで「博物館学」の定義と目的について考える。博物館の機能では、調査・研究、資料の収集、資料の整理・保存、展示・普及活動の4つの柱とその関係を知り、学芸員の役割を学ぶ。また、博物館の種類では、資料・機能・博物館法・設置者等々による分類を理解し、博物館を支える国内・国際的な規則、諸制度を学ぶ。博物館の歴史では、博物館の語源である古代ギリシャやエジプトのプトレマイオス朝に始まり、欧米や日本の近代以前の博物館、18・19世紀以降の近・現代の博物館史を学ぶ。現代の博物館では、教育普及活動における学校との連携・融合、生涯学習機関としての役割、地域社会との関係について考える。そのうえで、博物館の現状と課題を考える。

■学習上の留意点

博物館に関する基礎的知識なので、教科書を熟読すること。そのうえで、参考書を利用して理解を深めること。

■参考文献

『新しい博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本支部会編（芙蓉書房出版）

『新編博物館概論』鷹野光行・西源二郎・山田英徳・米田耕司編（同成社）

『博物館の歴史』高橋雄造（法政大学出版局）

| 科目コード | 科 目 名 | 単位数 |
|---------|--------|------|
| 2 0 1 1 | 博物館経営論 | 2 単位 |

教材コード 000475

教 材 名 『新博物館学—これからの博物館経営』

著 者 名 等 小林 克

■教材の概要

博物館を運営していくためには、形態面と活動面における適切な管理・運営が求められる。その上で、ミュージアム・マネジメントという概念の理解と実践内容が問われている。それらを学びあわせて、博物館との連携についても理解を深める。

■学習計画のポイント

博物館を運営していくためには、博物館資料とともに施設・設備、職員は不可欠である。今日、重要視されているミュージアム・マネジメント、ミュージアム・マーケティングという概念の理解と実践について学ぶ。博物館の自主的経営をはかるには、安定的な財源の確保、魅力ある展示をはじめとする来館者のニーズに促す事業展開などが求められている。また、博物館の連携も重要である。博物館を支える組織づくり、研究機関、地域社会など、博物館経営とはいかなるものか。実例をみながら課題を考える。

■学習上の留意点

本書のみにたよることなく、参考文献も参照して勉強すること。

■参考文献

『博物館経営論』大堀哲編（樹林房）

| 科目コード | 科目名 | 単位数 |
|-------|--------|-----|
| 2012 | 博物館資料論 | 2単位 |

教材コード 000493

教材名 『博物館資料論（改訂新版）』

著者名等 佐々木 利和・湯山 賢一

■教材の概要

博物館における資料とは何か。

博物館資料の収集、整理保管等に関する理論や方法について、各々の専門分野の研究者によって項目を定め、具体的に述べている。また、資料に関する調査・研究、資料保存に関する調査・研究の重要性を解き、あわせて調査・研究成果の還元や、収集した資料の公開についても理念を交えて紹介する。

■学習計画のポイント

博物館活動を持続するためには、資料収集が必要となる。その資料は、博物館の理念に基づく収集方針にそって持続的に収集することで、優れたコレクションとなる。人文系の場合、文献資料、考古資料、民俗資料、民族資料、絵画・彫刻などの美術資料、写真資料など様々であるが、資料収集にあたっては、フィールド調査を含む事前調査は不可欠である。資料によっては、現地保存を求められるものがあるので、その点は考慮しなければならない。また、資料の収集にあたっては、採集・発掘・購入・寄贈・交換・制作・繁殖・育成・寄託・借入などの方法がある。収集にあたってのモラルとして、法的な手続き・所有権・道義上のモラル・乱獲・謝礼・地元への還付なども怠ってはならない。収集した資料は、活躍するためには資料化が求められる。資料の分類、受入れ手続、登録は欠かすことができない。資料を細部まで観察することで、修復を要するものもある。必要に応じてレプリカ保存もある。博物館資料の取扱いにおいては、古文書・アーカイブス資料、考古・民族（民俗）系資料、美術系資料、自然系資料と犯意が広く、それぞれ留意点が異なる。それぞれの特徴をよく理解しておく必要がある。資料の収集、整理・保管において、博物館資料に関する研究や資料保存に関する研究は重要である。資料公開とともに調査研究活動の還元も求められている。

■学習上の留意点

まずは、教科書を熟読すること。執筆者によって、視点が異なる場合もあるので、最新の参考書を交えて勉強すること。

■参考文献

- 『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本支部会編（芙蓉書房出版）
- 『博物館学講座』第5版新版博物館資料論 青木豊他（雄山閣）
- 『博物館資料保存論』（通信教育教材）

| 科目コード | 科 目 名 | 単位数 |
|-------|----------|-----|
| 2013 | 博物館資料保存論 | 2単位 |

教材コード 000477

教 材 名 『文化財保存環境学』

著 者 名 等 三浦 定俊・佐野 千絵・木川 りか

■教材の概要

文化財を保存するための環境について、温度や湿度、光、空気汚染、振動・衝撃、火災・地震などの劣化要因を挙げ、劣化要因が起こす被害の大きさと事象発生確率から危険度を評価し、優先順位をつけて対策をたてる方法を解説。

■学習計画のポイント

- ① 博物館の資料が化学的、物理的、生物学的に劣化する要因のあげ、そのメカニズムと保存対策について学習できる。
- ② 自然災害や、火災などの人災、略奪や戦争などによる博物館資料の被害と応急的な対策について学習できる。

■学習上の留意点

博物館資料は、実物資料であり、展覧会などで活用すればするほど消耗していく、資料保存論を学ぶことによって博物館資料の消耗を防止する事が可能になるので、後世に資料を伝えていく責任がある学芸員を目指す人達は、その知識を博物館活動に即して学んでほしい。

■参考文献

『文化財虫害事典』東京文化財研究所編（クバプロ書籍）

| 科目コード | 科目名 | 単位数 |
|-------|--------|-----|
| 2014 | 博物館展示論 | 2単位 |

教材コード 000478

教材名 『学芸員の仕事』

著者名等 神奈川県博物館協会編

■教材の概要

本書は、博物館の常設展や特別展をはじめ、博物館のさまざまな課題や問題について理解することを目的としている。博物館資料の効果的な活かし方のうち、最もその意図が伝わる手段が「展示」である。「展示」とは何か、どのような視点に立つべきか、など、学芸員の経験から学習する。本書は、博物館業務全般にわたる内容となっているが、「博物館展示論」では、主に下記計画にもとづき、学習していく。

■学習計画のポイント

「博物館展示論」は新たに設置された科目であり、展示の歴史や、メディア、展示を通じた教育、展示形態の種類などの方法論・理論を学んでいく。本書では、単なる理論だけではなく、学芸員の実態を通して方法論を学ぶように設定されている。また、人文系のみならず自然系博物館施設の事例も多いので、それぞれの特色を活かした資料の取り扱い方、調査実態、展示設計、行程、パネル作成、巡回展示、さらに展示広報のあり方などを丁寧に読み取り、理解してもらいたい。

■学習上の留意点

博物館における展示は、博物館の経営理念や収集資料の特性に応じて検討することが必要である。よって、展示論は、経営論・資料論・教育論をはじめとした各論との密接な関連によって成立する。本科目の学習においては、本書だけに頼らず、コース必修科目で指定されている教材や、教材で提示されている参考文献を使い、さらには博物館を実際に見学して展示方法を学ぶことで、理論・方法論を実感することができる。積極的にさまざまな博物館施設に足を運んで貰いたい。

■参考文献

特になし。

| 科目コード | 科 目 名 | 単位数 |
|-------|--------|-----|
| 2015 | 博物館教育論 | 2単位 |

教材コード 000479

教 材 名 『博物館展示・教育論』

著 者 名 等 小原 巖・守井 典子・酒井 一光・塚原 正彦・降旗 千賀子・大堀 哲・佐々木 亨・廣瀬 隆人

■教材の概要

本書は、博物館における「教育」の意義を学び、その上で理論・実践に関わる知識や技術の理解・習得を目的としている。内容は、展示論・教育論の両部門を包含しているが、「博物館教育論」では、主に下記計画にもとづき、第5～7章ならびに特論を対象とする。

■学習計画のポイント

「博物館教育論」は新たに設置された科目であり、博物館がもつ、資料収集、整理・保管、調査・研究、教育活動のなかで、特に「教育活動」に重点を置く。博物館における「教育」とは何か、その意味・意義を丁寧に読み取って貰いたい。また、生涯学習、地域学習、専門教育としての人材養成など、教育の場としての博物館のあり方を考え、利用者と博物館との関係もあわせて学習したい。さらには、教育普及活動の実態などについてもその理解を深めてもらいたい。

■学習上の留意点

博物館教育は、収集資料の特性、展示情報、展示方法、博物館経営など、さまざまな部門との関連で成り立っている。よって、本科目の学習は本書だけに頼らず、コース必修科目で指定されている教材や、教材で提示されている参考文献を使ったり、さらには複数の博物館を実際に見学したり、博物館主催のイベントなどに参加することで、一層の理解の深化が期待できる。

■参考文献

特になし。

| 科目コード | 科目名 | 単位数 |
|-------|-------------|-----|
| 2016 | 博物館情報・メディア論 | 2単位 |

教材コード 000480

教材名 『博物館経営・情報論』

著者名等 佐々木 亨・亀井 修・竹内 有理

■教材の概要

本書は、「博物館情報・メディア論」において、博物館における「情報」の意義・活用、ならびに「メディア」を通じた情報発信の課題などを理解することを目的とする。さらに、情報提供と活用に関する基礎的能力の学習・修得をめざしていく。

■学習計画のポイント

全編にわたり、経営・展示・教育・情報と多岐にわたる内容となっている。そのなかから、資料の情報化について、博物館が持つさまざまな機能のなかで、博物館としての情報の意味、情報化、展示と情報との関係性、さらに情報の管理と教育普及を重点的に学習する。博物館で扱う情報は、近年の ICT (Information and Communication Technology) 化の進展との関係性も深くなっており、博物館のなかでシステム化される情報の意味、などについての理解を深めてもらいたい。また、経営との関わりのなかで考えるべき、経営戦略のための情報、メディアとしての博物館のあり方などを学ことで、近年の博物館のあり方とは何かを考えて貰いたい。

■学習上の留意点

情報では「博物館資料論」、情報発信は「博物館経営論」「博物館展示論」「博物館教育論」と関連性が高い。そのような点をかんがみ、本書での学習のみに頼らず、学芸員としての資質を養うためにも、その他のコース必修科目教材とあわせながら学習することで、一層の理解の深化が期待できるだろう。また、実際にどのような発信をしているのかは、実際に博物館を見学してみるとよい。

■参考文献

『博物館情報論（新版・博物館学講座）』加藤有次他編（雄山閣出版）